

令和7年度第1回多摩市一般介護予防事業評価委員会 《要点録》

日 時：令和7年7月29日（火）午後1時～3時

会 場：多摩市役所 302会議室

出席者：7名

欠席者：1名

傍聴者：0名

1 開会

- ・ 高齢支援課長挨拶
- ・ 委員長、副委員長の選出

2 報告

（1）令和6年度介護予防・日常生活支援総合事業実績及び令和7年度目標（資料5に沿って説明）

- （意見）介護予防リーダーの養成について、担い手が不足するエリアに重点的に募集をかけたと伺った。不足はある程度充足してきているか。
- （回答）教室に歩いて来られる地域に重点的にポスティングを行った結果、昨年度は担い手不足の教室のリーダーも充足した。
- （意見）元気塾の実施方法の見直しについて、具体的な予定や計画はあるか。
- （回答）介護予防ケアマネジメントについて、今までのケアマネジメントの類型を見直し、地域包括支援センターの負担を減らし、必要なところに時間を充てられるように見直したい。元気塾のサービス自体については、利用対象者像をはっきりさせていく必要があると考える。来年度から見直し出来るよう準備していきたい。
- （意見）元気塾の利用者について、何回でも利用できるのか。
- （回答）8か月あれば何回でも利用できる。但し、何回も利用するのが目的ではない。
- （意見）元気塾の目標値7割、8割というのは、何に対しての割合か。
- （回答）通所開始時に4か月間の個別目標を立てている。その目標に対して終了時の目標達成の割合、維持改善状況の割合を指している。
- （意見）多摩市の要介護認定率が低いのは、この事業の積み重ねが結果に繋がっているのか。多摩市は他市に比べ取り組みが進んでいるとみて良いか。
- （回答）要介護認定率はかなり低く抑えられている。各市とも介護予防事業については自由に展開できるため、多摩市より進んでいる自治体は数多くあると考える。
- （意見）それぞれの事業について何を目標にするかアウトカムの指標があるとさらに事業の成果が出せるのではないか。

（2）令和7年度TAMAフレイル予防プロジェクト実施方針（資料6-①、②に沿って説明）

- （意見）フィードバックシートは、当日分のデータも打ち込んで結果を出せるか。
- （回答）当日のデータ反映は難しい。入力を終えた回までの結果を確認し、今回の結果を比べてフィードバック出来るようにしている。
- （意見）普段は包括支援センターがフィードバックを担っているが、今後は包括支援センターもフィードバックのシステムを使うのか。
- （回答）国士舘大学の担当者のみで管理している。現在包括支援センターによる結果説明については引き続きお願いし、過去と比較した評価が必要な場合は市役所会場に繋いでほしい。

- (意見) 初めて来る人を増やす取り組みはどのように考えているか。
- (回答) 初めての人については、イベント会場で実施することで参加につなげ、フレイルチェックを知ってもらいたいと考えている。
- (意見) 生成 AI は、間違いがある。その確認はどうするか。
- (回答) 課題だと感じている。繰り返し同じパターンで同じ方法でチェックして制度を高めている。
- (意見) プリントして渡す際に、確認し説明した上で渡すことが重要。高齢者にとってわかりやすい表現か、本人にとって良い結果でない場合に不安だけをあおってしまう場合がある。
- (回答) 生成 AI による結果であることを丁寧に説明して対応したい。
- (意見) AI については技術的な問題、セキュリティ問題がある。精度検証は今のところどれくらい出来ているか。
- (回答) 信頼性に関しては、2018 年から対応してきた実績と T F P P 中のテキストデータが基本。今後検証は必要であると考え。指摘を受け懸念材料が出てきているため、紙で結果を渡すことはせず、AI による結果を参考にしてフィードバックをする方法にしたい。今日の意見を受けて検討したい。

(3) 介護予防リーフレットについて(資料 7-①、②、③に沿って説明)

- (意見) 従来の総合事業のリーフレットは使わずに新しいものになるのか。従来のリーフレットはチャートがわかりやすく、使いやすかった。
- (回答) 従来のリーフレットは、サービスの使い方から始まっている。事業対象者や要支援者へ向けた情報として必要であれば、修正して引き続き使うことも考える。
- 今回のリーフレットは、市民が「サービスを使う」から始まるのではなく、もっと元気になるために、ということが伝わる視点で作成している。
- (意見) 民間のサービスについて触れられていない。健康づくりのために民間のスポーツクラブ等他にも選択肢あることを PR しても良いのではないか。
- (回答) 紙媒体で出す都合上、情報が置き換わりやすいものはアクセスすれば情報が取れるような作りこみを検討している。QR コード等で読み込めるようなものを想定したい。
- (意見) フレイル対策 4 つの柱に口腔についてわかりやすく書いてあり良いと感じた。校了予定はいつか。デザインはプロにお願いするのか。
- (回答) 年内から年度内を目標としている。予算が通れば、プロに作成依頼予定。

(4) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業の取り組み状況について【保険年金課】 (資料 8 に沿って説明)

- (意見) 都内の他自治体に比べてもやる気を感じ期待が持てる。
- (意見) 健康状態不明者については、実態がつかめないところがある。訪問しても会えない、自宅近くの集まりへ案内しても来ない等なかなか会づらい。7 割会えているというのは驚異的。今後の成果を期待している。
- (意見) 今後大きな柱になっていく事業だと思う。どういう人にアプローチしているのか。
- (回答) 主に 75 歳以上の後期高齢者にアプローチしている。

(5) 令和 5 年度健康づくり推進事業について【健康推進課】(資料 9 に沿って説明)

- (意見) 推進員の男女比はどれくらいか。
- (回答) 2 : 1 で女性。地区によっても異なる。理事は 7 割男性である。

3 協議

(1) 介護予防事業の評価指標について(資料10-①、②、③に沿って説明)

(意見) ロジックの流れについて概ね合意。内容は完璧だと思うので、今後はシンプル化することが必要。インパクトに孤独死についての記載があるが、孤独死自体は悪いことではない。一人暮らしの方が亡くなったときに誰に声をかけるかがはっきりしていないことが困る。ACPを65歳以上の人全員が一回は書くようなイメージを想定しアウトカムやインパクトに入れると良いのでは。PDCAに基づく評価は、今の事業ではやれてないことや、これからやるべき事業が漏れてしまうところがある。

老いていく高齢者についてどうしていくかを考えていたのが今までのモデル。弱くなる人をターゲットにしてきたが、将来のモデルとしてはオピニオンリーダーに向けて、多摩で元気に生きて死んでいくにはTFPPもACPもやるということが大事。将来的に多摩で文化をつくっていくとしたらどうしたらいいかという点を整理してはどうか。

(意見) 今はアプリ等が充実している。65歳以上のどれくらいの人かTFPPに参加した、どれくらいの人かACPを書いたということを把握してみてはどうか。また、今後多摩で一人で死ぬのは怖くないというイメージが出来るよう議論してみてもどうか。

(意見) 中間アウトカムに「困りごとを相談できる」とある。学術的に言うと、「相談できる」と「相談できると思う」という感覚の2つがある。「安心して生きる」という目的だと、実際に相談できる人が居なくても、「相談できると思う」という感覚が大事だということがわかってる。この二つをわけて選択した方が良い。実際に相談者が居るかどうかより「そう思えるかどうか」の視点を加えたら良い。

4 その他

- ・次回 令和8年1月頃を予定。
- ・令和8年度評価委員会より、年3回の実施を予定。
- ・委員の任期について、令和9年度より4月～翌年度3月末までの2年間を予定

以 上